

<金標準、予想外の円安で買われ過ぎた価格・・・>



(出所：オアシス)

前田元日銀理事が「春ごろまでにマイナス金利は解除される」と発言し、NY 連銀製造業景気指数が-43.7 へ大きく低下したが、ウォラーFRB 理事が講演で利下げに対して「秩序だって慎重であるべき」と言及し年 6 回の利下げ思惑が後退している。ただ共和党アイオワ州党员集会でトランプ前大統領が勝利すると、中国に対する関税問題を受けて中国株の下落やドル買いの動きが強まりを見せている。特に円建て取引である金標準先物は、中東情勢のリスク拡大を受けた逃避の需要や 148.52 円まで円安が進む動きを受けて、9600 円を回復している。また FOMC を控え、来週からブラックアウトに入る前に今年の FOMC の投票権を持つポストティック・アトランタ連銀総裁は講演で「現在の私の見通しは今年第 3 四半期のどこかで最初の利下げを行うというものだ」と発言し、年内の利下げ開始の思惑が残るため、9700 円まで戻りを見せている。ただ今週から日銀、ECB と金融政策に話題が移行するため、利益確定の値動きに注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** と **シグナル** が上昇を続けている。また RCI では **長期** と **短期** が 85% 以上で横ばいしており、強気の継続を示唆している。ただオシレーターは目先高値に届いており、調整の動きは注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 1 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 1 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>